令和7年度　　令和8年1月30日評価実施

ひばり保育園：園評価

（評価）　A：大変良い　B：よい　C：一部検討を要する　D:改善を要する

Ⅰ・保育理念		評価
子どもの最善の利益の考慮	・全ての園児について一人一人の最善の利益とその人権を尊重している。	A
	・子どもの人格を尊重した声掛けをしている。	A
	・子どもの意思や行動を大切にした関わりをしている。	A
	・園の理念や保育方針を理解し実践している。	A
Ⅱ・子どもの発達援助		
（1）子どもの福祉を増進することに最もふさわしい生活の場	・保育環境を常に清潔に保ち、美観を大切にし心地よい環境で保育が出来るように努めている。	A
	・一日の生活の流れに無理が無いように配慮し、保育環境の安全と清潔が保たれている。	A
（2）生活と発達の連続性	・好きな遊びを十分に楽しめるように計画し、働きかけをおこなっている。	A
	・一人一人の子どもの発達過程に合わせた目標や計画を作成し保育している。	A
	・重要な申し送り事項を記録し、進級時等に引継ぎをしている。	A
（3）養護と教育の一体的展開	・子どもの生活を24時間でとらえ、家庭（保護者）や職員間での連絡、連携をしている。	A
	・子どもの家庭の状況や要望、成長歴を把握している	A
	・基本的生活習慣は、園児の発達を考慮し、家庭と連携して状況に応じて対応している。	A
（4）環境を通して行う保育	・子どもが保育士や友達とともに過ごすことを楽しめるような配慮をしてい	A
	・一人一人が興味・関心を持って遊べるよう援助している。	A
	・子どもがしたいこと、して欲しいことを話しているとき、最後までゆっくり聴くようにしている。	A
	・子どもがのびのびと体を動かせるような遊びの環境を意識してつくっている。	A
	・子どもが自発的に表現するよう、自由に使える様々な素材を用意している。	B
	・生活や遊びの中で、食に関する興味関心が広げられる働きかけをしている。	A

	・園児に分かりやすい温かな言葉使いで穏やかに話をしている。	A
	・身近な自然に触れる機会を用意し、季節感や豊かな感性を育む配慮をしている。	A
	・園児同士の関わりで、順番を守るなどの社会的ルールを身につける配慮をしている。	A
Ⅲ保護者に対する支援		
(1) 家庭との連携	・園だより、クラスだより、連絡帳を通して子どもの成長の喜びを保護者と共有出来るようにしている。	A
	・保育参観、保育参加、保護者参加行事などを通して、保育内容・保育の目的などをわかりやすく説明している。	A
	・毎月の献立は保護者に示され、毎日の食事の状況を保護者に知らせている。	A
	・悩みを抱えている保護者の援助をこころがけている。	A
(2) 地域ににおける子育て支援	・一時保育事業を行っている。	A
	・地域の関係機関や施設の研修などに参加している。	A
Ⅳ 保育を支える組織的基盤		
(1) 健康及び安全の実施体制	・子どもの日々の健康状態を把握している。	A
	・園児の健康診断は定期的に実施されその結果は職員や保護者に伝達され保育に反映されている。	A
	・施設、設備の安全点検を点検マニュアルに沿って行い不具合な箇所を必要な対策をとっている。	A
	・地震・火災・不審者侵入時などの緊急対応手順を理解している。	A
	・指導計画について、各月の振り返りを行い、次月の向けての計画を検討している。	A
(2) 資質の向上	・保育に関する専門書を読んだり、研修に参加し知識や技術の向上に努めている。	A
	・職員として不正、不適切な行為を行わないよう、守るべき法規範、倫理などを理解している。	A
(3) 社会的責任	・守秘義務を理解し、個人情報について、園のルールに基づき取り扱っている。	A
	・保護者からの意見や要望、苦情を迅速に園長に報告し、職員間で共有し、改善している。	A

総評価

・ほぼコロナ前の保育に戻っている。しかし、コロナやインフルエンザ、その他の感染症（溶連菌感染症・ヒトメタニューモウイルス感染症など）が少し流行ることもあった。　園内の感染防止対策については継続している。

・やや山間部に近いので、自然豊かな地域への散歩で体力を増進させる。けれど、最近はクマや鹿、イノシシなどの出没情報もやや頻繁に耳にする。散歩前の下見は欠かせないが、無線機や携帯電話などを持って出かけるようにする。また、地域のクマ出没情報などのチェックも必ず行う。

・保護者参加行事を綿密に計画する。運動会は保護者の参加可能人数を増やし、年長組に関しては親子でお弁当を食べる時間を作り、家族での団らんタイムを大事にする。また、保護者競技や保護者とのダンスやゲームをプログラムに入れ、親子で楽しめるようにした。遠足も保護者の参加人数を増やし、年長組のみお弁当タイムを作っている。楽しそうな親子の姿がたくさん見られ、嬉しく思った。

・年々、発達の気になる子が多くなるが、診断書が提出していないと下肺の対象にならない。保育士の加配が十分に出来ず、クラス運営にゆとりがやや持てない。支援の必要な子に対してで手いっぱいにならないように努め、フリーの保育士がカバーする体制を作っている。

・保育参観は、６月と11月の2回(1ヶ月ずつ)にし、年間2回の参観を長期間で実施している。2ヶ月間のロングランで、担任保育士は大変そうだったが、保護者には日々の保育を見ていただく機会を増やせたと思う。保育参観に来園することが定着してきて、８割から９割の家庭が参観に来ていた。園生活を、近くで見て聞いて感じていただくことは、保育所の理解につながることなので、とても良いことだと思う。